丁寧なものづくり10年

青森一高養ブランド「テイネイ」

青森

青森第一高等養護学校が職業教育の一環として立ち上げた独自ブランド「テイネイ」が今年10周年を迎えた。教諭らの指導の下、生徒たちが木工や織物、市渋和紙など製作に取り組んでいる。（若松有希）

宅配ボックスのねじを締める作業に当たる生徒たち。木の板の色付け、やすりがけなど分担しながら完成させる

テイネイは2014年、「ものづくり」を通して生徒の能力を引き出し、さらに人の手に届けることで仕事の喜びを感じてもらうことを目的に始まった。コンセプトは「丁寧なものづくり」。生徒たちは3学年合同で、得意分野や伸ばしたい能力に合わせ、分担して製作に当たっている。

スタート当初は織物のバッグや牛乳パックをリサイクルした手すき和紙を使った文房具製作のほか、大根や白菜など野菜栽培にも取り組んだが、10年間で作品はより多様になった。

色の組み合わせを考えながら織物製作に取り組む生徒

木工や織物… 作品多様に

「より生徒たちができることを増やしたかった」と話すのは、木工の指導に当たる能澤大輔教諭。木工作品はまな板の製作が主だったが、より複雑な工程や作業を経験してもらおうと、宅配ボックスの製作に挑戦するなど種類を増やした。

教諭らが「自分たちで作業を進められるように」と工夫して作った補助道具を生徒たちが使いながら、くぎを打ち込んだり塗装したりする。工程を終えると「確認お願いします」と教諭の元へ。能澤教諭は「頼もしい。生徒同士で教え合って協力して進めていて、障がい種別や学年に関係なく作業ができている」と誇らしげに語った。

宅配ボックスの製作をしていた木村康誠さん(16)は「満遍なく色を塗るのが難しかった。お客さんに大事に使ってもらえるように作りたい」と意気込み、織物に取り組む小山内悠翔さん(16)は「色の組み合わせを考えて作業するのは面白い」と製作の楽しさを語った。

作品は青森市のJR青森駅自由通路「駅前アートギャラリー」で、9月末まで展示している。

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。